

宮城県大崎保健所栗原支所

感染症発生動向調査情報

(令和7年10月10日発行)

1. 定点把握対象疾患の発生動向 ※栗原支所管内を含む大崎保健所管内

上段は圏域全体で一週間に診断した患者数、下段は一つの定点(医療機関)あたり一週間に診断した患者数。＊は急性呼吸器感染症(ARI)に含まれる感染症。

疾 病		疫学週			
		37 週	38 週	39 週	40 週
		9月8日 ～ 9月14日	9月15日 ～ 9月21日	9月22日 ～ 9月28日	9月29日 ～ 10月5日
急性呼吸器感染症(ARI) ＊ インフルエンザ ＊ 新型コロナウイルス感染症 ＊	急性呼吸器感染症(ARI)＊	668 133.60	504 100.80	581 116.20	650 130.00
	インフルエンザ＊	1 0.20			1 0.20
	新型コロナウイルス感染症＊	98 19.60	53 10.60	59 11.80	45 9.00
小児科 定点	RSウイルス感染症＊	4 1.33	2 0.67	4 1.33	1 0.33
	咽頭結膜熱＊		1 0.33		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＊	8 2.67	6 2.00	5 1.67	5 1.67
	感染性胃腸炎	1 0.33	4 1.33	5 1.67	5 1.67
	水痘	11 3.67	4 1.33	10 3.33	8 2.67
	手足口病		2 0.67	1 0.33	2 0.67
	伝染性紅斑	12 4.00	5 1.67	4 1.33	6 2.00
	突発性発しん		1 0.33	1 0.33	2 0.67
	ヘルパンギーナ＊	19 6.33	9 3.00	5 1.67	1 0.33
	流行性耳下腺炎	1 0.33		1 0.33	1 0.33
眼科 定点	急性出血性結膜炎				
	流行性角結膜炎				
基幹 定点	感染性胃腸炎(ロタウイルス)				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				
	細菌性髄膜炎(真菌性を含む)				
	マイコプラズマ肺炎	2 2.00	2 2.00		1 1.00
	無菌性髄膜炎				
拡張 疾患	マイコプラズマ肺炎(小児科)	5	10	7	6
	川崎病	1		1	1
	不明発疹症		3		

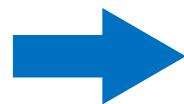
大崎保健所管内定点数:内科定点2施設 小児科定点3施設 眼科定点1施設 基幹定点1施設

2. 集団発生状況 ※栗原支所の過去2週間における対応状況

施設区分	保育所	高齢者・障害者施設	医療機関
対応状況	—	—	—
備考			

【医療機関の皆様へ】

・感染症法に基づく、
医師の届出に必要な
アカウントの発行及び
システムのログインは
こちら



アカウント発行

システムログイン



3. 栗原支所より

◎:複数対応中、○:対応施設あり、—:対応無し

【全数報告疾病】※栗原支所管内

- ・ 3類:腸管出血性大腸菌感染症 男1名
- ・ 5類:百日咳 男1名、女1名
- ・ 長引く咳症状がある場合は、咳エチケットなどの感染対策、医療機関の相談を推奨いたします。

【定点把握対象疾患の発生動向】

※栗原支所管内を含む大崎保健所管内

- ・ 新型コロナウイルス感染症、水痘、伝染性紅斑は注意が必要です。
- ・ 引き続き、基本的な感染対策を徹底してください。

【集団発生状況】※栗原支所管内

- ・ 新たな集団発生はありません。

【お知らせ】

- ・ 冬季は感染症が多く発生する時期です。医療機関や社会福祉施設等におきましては、下記基準を満たす場合は集団発生の届出をお願いします。保健所職員が早期終息に向けてお手伝いいたします。
 - ①同一の感染症若しくは食中毒による又はそれらによると疑われる死亡者又は重篤患者が1週間以内に2名以上発生した場合。
 - ②同一の感染症若しくは食中毒の患者又はそれらが疑われる者が10名以上又は全利用者の半数以上発生した場合。
 - ③①及び②に該当しない場合であっても、通常の発生動向を上回る感染症等の発生が疑われ、特に施設長が報告を必要と認めた場合。
- ・ 報告は電子申請にて、右記QRコードから可能です。



【感染症コラム～水痘～】

- ・ 水痘とは、水痘帯状疱疹ウイルスによる感染症です。一般的に「みずぼうそう」として知られています。2～8歳で多く見られます。
- ・ 10～21日の潜伏期を経て、38度前後の発熱、体幹を中心とした全身に発疹が出現します。発疹はかゆみを伴い、紅斑、丘疹(盛り上がった赤い発疹)を経て水疱となり痂皮化します。成人ではより重症となり、肺炎や脳炎など重篤な合併症を起こし死亡することがあります。
- ・ 感染経路は、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込む飛沫・空気感染、水疱や粘膜の排出物に触れることによる接触感染です。発疹出現の1～2日前から全ての水疱が痂皮化(約6日)するまでは感染性があります。
- ・ 治療には、抗ウイルス薬が使用されることがあります。
- ・ 治癒後もウイルスが体内に潜伏するため、疲れなどにより抵抗力が落ちた時にウイルスが活性化され、「帯状疱疹」として再発することがあります。
- ・ 感染すると、終生免疫(生涯その感染症にかからない)を獲得できることが多いです。その他、2回の水痘ワクチンの接種により、予防、症状の軽症化が期待できます。